



新保 峰孝 議員

質問 北陸新幹線の騒音対策について

北陸新幹線の騒音被害の状況は把握しているか。騒音の解決策について、関係住民の方たちとの話し合いはもったか。また、JRの考える騒音対策と関係住民の要求との関係はどのようになっているか。今後の対応についてはどのように考えているか。

▼市長答弁

地元自治会と連携して状況を把握しており、鉄道・運輸機構と連携した地元説明会や自治会役員との話し合いを行っている。また、騒音の音源対策について鉄道・運輸機構へ地元の要望を伝えている。今後は、音源対策と住宅の防音工事の早期実施に向けて進めていく。

質問 国民健康保険について

当市の国民健康保険における医療費は、高血圧、脳こうそく、虚血性心疾患、糖尿病が県平均を上回っており、県下でも高い状況とのことだが、どのようになっているか。特定健診受診率の引上げが必要と思うが、どのように取り組んでいるか。

人口減少と高齢化が進む中、国保加入者も減少している。それに伴い国保税の負担が重くなっていくことになる。一般会計からの繰入れを考えるべきではないか。

▼市長答弁

高齢者比率が高いことから県平均より高くなっていくが、循環器系、内分泌系の医療費は、入院では減少傾向、外来では横ばい状態となっている。個別案内や健診料金の助成をはじめ、休日や医療機関での検診など、受診しやすい体制づくりに努めていく。

国民健康保険事業の保険税については、受益者の負担で行われるべきものであり、一般会計からの繰入れはできるだけ避けたいと考えている。

その他質問項目

- 介護保険法改定への対応等について
- 65歳定年制について



伊藤 文博 議員

質問 子ども一貫教育方針の推進について

平成22年3月に「ひとみかがやく日本一の子ども」というキャッチフレーズの「子ども一貫教育方針」が定められたが、5年半が経過した現在でも、その成果は市民の実感として響いているとは言えない。昨年度に方針の改定がなされ、現在、基本計画の改訂版を策定中ということだが、教育行政全般について伺う。

子ども一貫教育方針等改定の理由と、課題とする重要なポイントは何か。

教育現場(幼・保、小、中、高)の声は、どの段階でどのように取り入れられていくのか。また、保護者や生徒児童の声は、どのように活かされていくのか。

推進段階の教育委員会(委員・事務局)と教育現場(幼・保、小、中、高)、地域、家庭の連携が重要だが、どのように図っていくか。推進体制はどのように考えているか。また、策定された方針が形骸化しないための臨

機の改定について、どのように考えているか。

▼教育長答弁

社会情勢や学校に求められる状況の変化、またキャリア教育の重要性が高まっていることから、昨年基本方針の見直しを行っており、問題は、学力の向上、社会性や道徳性の育成、家庭・地域とのさらなる連携の3点である。

園、学校、PTAの代表を策定委員としており、現場の声を取り入れている。また、児童生徒の声については、全国学習状況調査や学校評価等の結果を踏まえ、計画に反映している。

連携については、教育委員会、園、学校、PTA、地域で情報共有ができる機会を設け、中学校区単位で推進できる体制としていく。平成35年度までの長期計画であるため、定期的に取り組みの成果を検証し、必要に応じて計画を改定することとしている。

